

石狩小学校校舎利活用について（案）

石狩小学校校舎利活用検討委員会

1. これまでの経緯などについて

石狩小学校と八幡小学校が来年4月に統合し、統合後は現在の八幡小学校の校舎を使用することから、石狩小学校校舎は使われなくなります。

現在の石狩小学校校舎は、昭和31年（1956年）に建設された円形校舎とその後に増築された校舎（以下「増築校舎」といいます。）及び屋内運動場から成りますが、なかでも円形校舎は北海道内で最初に建設され、唯一現役で使用されていて、子どもたちはもとより地域の方々にも「缶詰校舎」として長く親しまれてきました。学校統合に向けた地域との話し合いの中で、この建物の保存を望む声が多かったことを踏まえ、石狩市教育委員会は、統合後の石狩小学校校舎を「まちの歴史文化を後世に伝える」歴史館的な施設として保存・活用する方向性を打ち出しました。

そして、より具体的な利活用方法について検討するため、平成30年7月に本委員会が設置されました。本委員会では6回にわたる会議と一般からの意見募集、意見交換会を経て石狩小学校利活用案をとりまとめ、このたび意見書として提出するものです。

2. 石小利活用施設といしかり砂丘の風資料館の位置付けについて

石狩小学校のある本町地区は、「石狩発祥の地」であり多くの歴史資源が残されているとともに、「はまなすの丘公園」、海水浴場「あそびーち石狩」や「番屋の湯」など特徴的な観光資源に恵まれています。現在、本町地区には既に「いしかり砂丘の風資料館」があり、石狩小学校校舎を歴史館的に利活用する施設（以下「石小利活用施設」といいます。）ができると、近接して同種の施設が立地することになります。こうしたことから、本町地区という立地環境を踏まえつつ、「石小利活用施設」と「いしかり砂丘の風資料館」の位置付けを検討しました。

（別紙「石狩小・砂丘の風資料館の位置づけ」参照）

＝基本となる考え方＝

① 2館1セットで石狩の歴史・自然を伝える

石狩市は大きく「石狩」「厚田」「浜益」の3地区に分けられますが、厚田を中心とした歴史や自然は「道の駅石狩あいろーど厚田」で、ニシン漁を中心とした浜益の歴史は「はまます郷土資料館」で展示しています。石狩地区の歴史や自然はこれまで「砂丘の風資料館」で展示してきましたが、必ずしも十分なスペースが確保できていないと思われます。このことから、今後は「石小利活用施設」と「砂丘の風資料館」の2館がそれぞれ機能を分担して、石狩地区の多様な歴史と自然をしっかりと伝えることが必要です。

②砂丘の風資料館＝本町地区の歴史展示＋本町地区ガイドンス

砂丘の風資料館は、本町地区の歴史資源が集まる「弁天歴史通り」の入り口に位置し、隣には明治時代の石造り店舗である「旧長野商店（市指定文化財、日本遺産「北前船」構成資産）」が復元展示されています。砂丘の風資料館ではこれらの環境を生かし、石狩地区の中でも特に本町地区を対象を絞り込んだ歴史展示を行うことが適当です。

また、砂丘の風資料館は「番屋の湯」とも近接しているため、資料館から番屋の湯入浴客に対して積極的に本町地区の魅力を発信し、本町地区観光へと誘導する、新しい役割についても検討すべきです。なお、本町地区には下表のとおり、集客能力が高い観光資源に近接した公共施設が他にもあります。本町地区を挟み込むようにして立地するこれら3つの施設が、目的地の観光資源を訪れる客に本町地区の風土や歴史などの魅力を伝え、地区内の「ついで回遊」を喚起することができれば、固有の歴史・自然遺産を活かした本町地区の活性化も期待できます。

観光資源	集客時期	近接する公共施設
番屋の湯	通年	いしかり砂丘の風資料館
はまなすの丘公園・石狩川河口	主に春～秋	はまなすの丘公園ヴィジターセンター
あそびーち石狩	7～8月	石狩浜海浜植物保護センター

③石小利活用施設＝石狩地区（本町除く）の展示＋博物館機能の中核

砂丘の風資料館と2館1セットで石狩地区の魅力を伝えるため、石小利活用施設は、石狩地区のうち本町以外の地区に関する歴史・自然、さらに石狩の学校史についての「展示」と「発信」を行う必要があります。また、十分なスペースが確保できる廃校舎という条件を活かし、これまで市内で不足していた博物館活動の拠点として、歴史資料・自然史標本の「収集・整理保管」、「調査研究」、各種講座の開催等の「教育普及」や歴史・自然ボランティア等の市民活動、さらに文化財保護行政などが果たせることが必要です。なお、石狩小学校増築校舎の1階部分は、老朽化が著しい放課後児童クラブ「つくしクラブ」の移転先として利用することが市の方針となっているため、本委員会の検討対象から除いています。

3. 石狩小学校校舎の利活用案について

石小利活用施設が前記のような役割を果たすために備えるべき機能を、円形校舎、増築校舎と屋内運動場に分けて、次のように考察しました。

(別紙平面図参照)

＝円形校舎部分（約 1,100 m²）＝

円形校舎は石狩小学校のシンボルであり、石小利活用施設の最大のアピールポイントになります。このため、円形校舎に展示機能を基本的にすべて集約し、各室を活用して石狩の歴史や自然をテーマにした次のような展示を行うことが適当です。なおその際は、砂丘の風資料館の展示の一部を円形校舎に移設する必要も生じると考えられます。

- ①道内屈指の石狩小学校の歴史や特徴的な円形校舎についての展示。
- ②これまでに市内で統廃合された学校の説明を中心に、石狩市の学校史を解説する展示。
- ③閉校時使用されていた教室をそのままの形で保存展示。平成の学校の雰囲気伝えるとともに、会議、小規模の講義、団体客へのガイダンスなどにも使用できるようにする。
- ④石狩市内のアイヌや明治時代に北海道に強制的に移住させられ、後に石狩町に居住した樺太アイヌの歴史や文化などについての展示。
- ⑤縄文時代のサケ漁遺跡など、石狩で発掘された考古資料についての展示。
- ⑥市内各地への開拓・入植など村落の形成と変遷についての展示。
- ⑦花川や樽川など住宅団地開発に関する展示。
- ⑧砂地での水田開発、樽川の大規模有畜農業、石狩油田など石狩の特徴的な産業史に関する展示。
- ⑨石狩の地形・地質、動植物、海など自然に関する展示。
- ⑩企画展示室：上記①～⑨の常設展示とは別に、期間を設けて特定のテーマを取り上げた展示を行う。
- ⑪パティオ：2階のホールに本棚やベンチを置き、図書の閲覧や少人数の歓談、軽飲食などに利用できるようにする。

上記の展示のほか、円形校舎には事務室、軽作業室などの管理用諸室も必要になると思われます。

＝増築校舎2階部分（約500㎡）＝

増築校舎の2階は水回り設備があり火気も使用できる理科室、コンピュータ教室、音響面に配慮された音楽室などがあるため、これらの諸室の特徴を生かして次のような利活用を想定します。

- ①体験学習室：実験や調理などの体験学習や各種研究を行ったり、ボランティアが活動拠点として利用。
- ②講堂：50～70人程度を収容し、会議、講演会、研究会などを開催。
- ③特別収蔵庫：温湿度管理が必要な貴重資料を収蔵する特別収蔵庫。

＝屋内運動場（約 1,000 ㎡）＝

屋内運動場は広い運動場にトイレ、器具室、準備室などが附属しているため、収蔵庫としての利用をメインとして、附属諸室を書庫、写真撮影スタジオ、採集した生物の解剖や解体、薬品処理、洗浄などを行う実験作業室などに利用することを想定します。

4. いしかり砂丘の風資料館のリニューアルについて

「2. 石小利活用施設といしかり砂丘の風資料館の位置付けについて」②のとおり、今後、

いしかり砂丘の風資料館に「本町地区の歴史展示」と「本町地区ガイド」の機能を導入するためには、次のようなりニューアルが必要になると思われます。

- ①展示内容の見直し：イシカリ場所に始まる本町地区の歴史展示を充実させ、それに関係しない展示は石小利活用施設に移すなど展示内容を見直すとともに、2階部分の展示スペースを拡大する。
- ②インフォメーションコーナーの開設：砂丘の風資料館の1階に、本町地区の観光情報など「まちにいざなう情報」を発信し、誰でも無料で利用できるインフォメーションコーナーを開設する。

5. その他

(1) やはた丸について

石狩渡船は、明治5年の開設から石狩河口橋の完成まで、長い間にわたって本町と八幡町・厚田方面を結ぶ交通の大動脈でした。昭和34年に就航し、53年の廃止まで石狩渡船で活躍した「汽船 やはた丸」は、石狩の交通史を語る上で欠かせない資料です。長い間一般の目に触れない環境で保管されてきた「やはた丸」を、石小利活用施設の整備を機に、この敷地内で復元・展示することが適当と考えます。

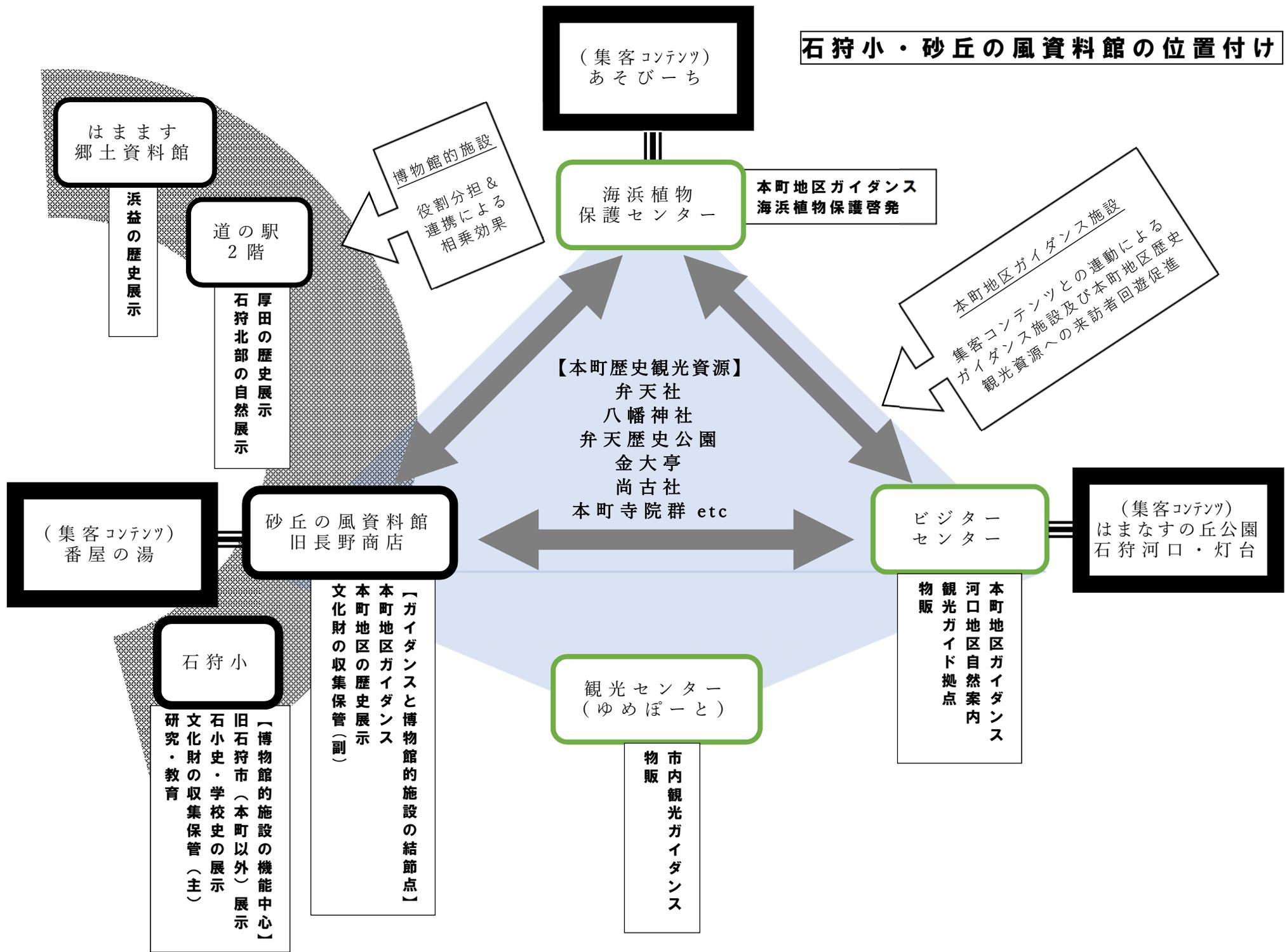
(2) 反映されていない意見について

これまで検討委員会では様々な議論が行われ、委員の意見の多くはこの利活用（案）に反映されていますが、中には反映できなかった意見もありました。反映されていない主な意見とその理由は次のとおりです。

- ①本州で廃校を宿泊施設に利用して成功した事例がある。稀少な円形校舎に宿泊できれば大きな反響と集客効果が望めるので、一部の部屋を宿泊用にしてはどうか。
(反映されていない理由)
 - ・石小利活用施設が「まちの歴史文化を後世に伝える施設」として機能を発揮するためには、「3. 石狩小学校校舎の利活用案について」で示したような展示、収蔵、活動のスペースが必要であり、宿泊用の部屋を確保する物理的な余裕がない。
 - ・本町地区にはそれほど大きな宿泊需要がない中で、既に民営の宿泊施設が存在している。石小利活用施設に宿泊機能を導入することは、市による民業圧迫になるおそれがある。
- ②本町地区内外の住民が交流したり、イベントを開催できるような多目的な施設としてはどうか。
(反映されていない理由)
 - ・石小利活用施設は「まちの歴史文化を後世に伝える施設」とすることを前提としており、施設の性格を根本的に変えることはできない。
 - ・ただし、円形校舎の教室保存展示やパティオ、増設校舎の講堂など、人々の交流や

イベントに活用できるスペースは確保しているので、これらを活用しやすいような管理運営を行うことで意見の趣旨は生かされる。

石狩小・砂丘の風資料館の位置付け



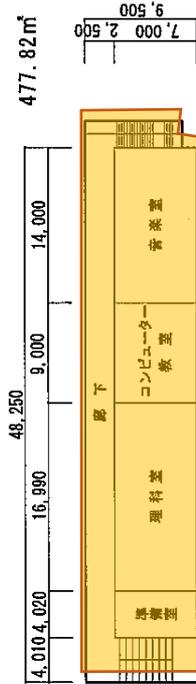
1 階部分

円形校舎：565.55㎡
 渡り廊下：30.82㎡
 1階校舎：492.82㎡
 1,089.19㎡

2 階部分

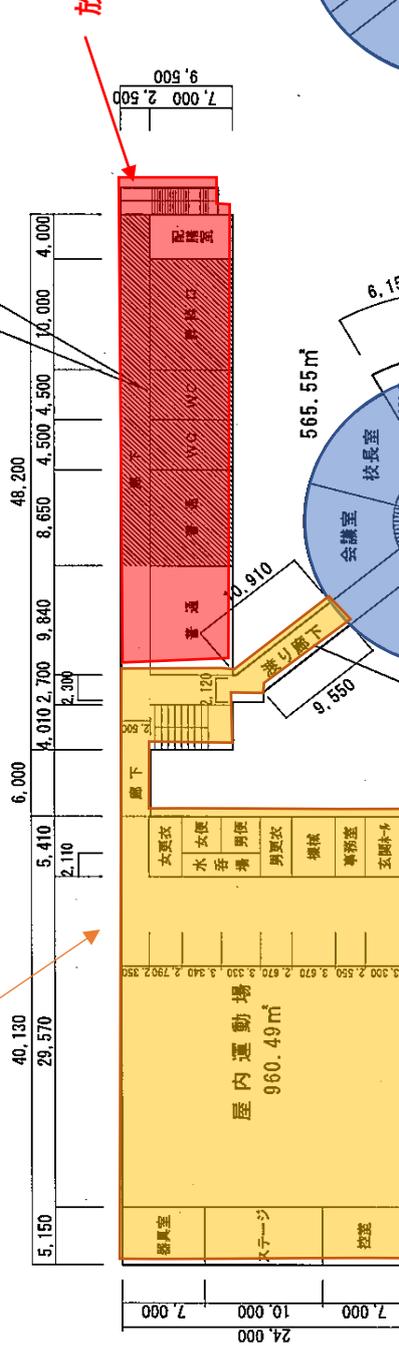
円形校舎：545.46㎡
 2階校舎：477.87㎡
 1,023.33㎡

屋内体育館：960.49㎡
 合計 3,073.01㎡



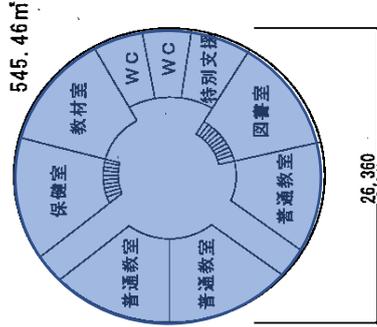
2 階平面図

収蔵・活動スペース
 約1,500㎡



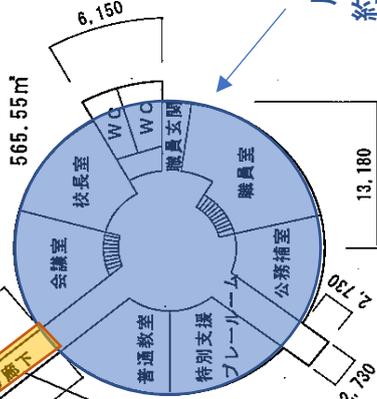
放課後児童館
 約400㎡

1 階平面図



545.46㎡

展示スペース
 約1,100㎡



565.55㎡